

# Q<sup>2</sup>PEC

2025年度

工学部(府)生向け海外研修



Q<sup>2</sup>PEC(キューペック)

Qshu-Queensland Program for English Communication

オーストラリア屈指のクイーンズランド大学(UQ)内にあるUQ College において、英語研修を受けるプログラムです。英語力向上に加えて、グローバルマインドや学位留学への意識涵養を目指します。

## ●研修内容

Week 1~5の月~金(土日は自由時間)

午前:英語カススキルアップのクラス

(各国からの留学生と受講)

午後:UQ工学部生との交流、

工学部研究室紹介及び研究室訪問(UQ-KUプロジェクト支援)

2025年度6~7月(3週間)UQ工学部生22名が九大を訪れます(UQ-JPIE)

Q<sup>2</sup>PEC派遣前と派遣中に、UQ生との長期間における交流が楽しめます

英語研修(Integrated English)の詳細は、UQ College HP <https://uqcollege.uq.edu.au/>

実施期間:2025年8月22日(金)~9月28日(日)5週間

実施場所:クイーンズランド大学 UQ College、ブリスベン(豪)

滞在先:ホームステイ(大学近くの一般家庭)

募集人員:20名程度(農学部およびシステム情報科学府は数名募集)

対象者:工学部・農学部・工学府・システム情報科学府の日本人学生

費用:約65万円(奨学金を全て受給の場合の実質参加費用:35万円前後)

単位:4単位付与(工学部・府の参考単位)

募集期間:2025/4/18(金)午前9時~6/2(月)午前8時

申請方法:オンライン申請(右記QRコード参照)

※奨学金(日本学生支援機構、九州大学基金、学部・学府奨学金など)は学部、学府によって異なります。詳しくは工学系国際推進室までお尋ねください。



## プログラム説明会

4月17日(木) 18:20~19:20 オンライン

Zoom URL: <https://us02web.zoom.us/j/85960133486>

Meeting ID: 859 6013 3486

4月30日(水) 12:10~12:50 対面実施

実施場所:センターゾーン2号館 1F 2107教室

5月13日(火) 16:40~17:40 対面実施

実施場所:ウエストゾーン総合学習プラザ 1F 第8講義室

協力・支援



UQ-KU Project  
九州大学  
研究教育交流拠点

<問い合わせ先>

工学部教務課 工学系国際推進室 (W4号館2階203号室)

担当:水谷 Tel:092-802-3870

E-mail: [kotio@jimu.kyushu-u.ac.jp](mailto:kotio@jimu.kyushu-u.ac.jp)

URL: <https://www.eng.kyushu-u.ac.jp/shortterm.html>

## 参加学生の声

- 今まで持っていた価値観が変化し、大学で過ごす間にできることを模索してもっと多くのことに挑戦していきたいと思えるようになった。それは海外の大学生は多くの日本の学生と異なり、図書館で真面目に勉強していたり、授業でも質問をより多くしていたりと積極性の面でかなり感心することが多く、自身のモチベーションも高めることができた。
- 英語力を大きく伸ばすだけでなく、文化の違いや多様性を体験し、いろいろな国出身の人とも仲良くなることができ、人間として大きく成長することが出来た。特に、自分に自信がつき、ミスを恐れずに、人の目を気にしすぎることなく、行動できるようになった。
- バディがいた事で、現地に頼れる人がいる安心感があった。現地でオーストラリアの友達を作るのは難しいので、プログラムがきっかけでバディを組んで仲良くなれて良かった。休日に一緒に出かけたりしてより楽しむことが出来た。
- まだまだ消極的ではあるが、少しは積極的に英語を話せるようになったと思う。伝えたいことが十分に伝わらずに悔しい思いはしたが、つたない英語でも話せば相手が違う表現で聞き返すなど分かろうとしてくれるし意外と伝わるということを知り、英語を話す恐怖心が少しは軽減した。また、英語の勉強に対するモチベーションがあがった。
- ホームステイ先では、家庭菜園といった自分にとって新鮮な様々な物を食べさせてもらって良かった。特にAUのパンケーキの作り方を教えて貰った際は非常に興味深く面白かった。
- 英語の授業では、授業形態として生徒が意見を言い合う、日本で行われている一方向の授業でない点が非常に新鮮に感じ、授業として非常に面白かった。ディスカッションがたびたび要求されており、より実用性に重きを置いた授業形態にも満足している。
- 海外の大学で工学部の授業を受けると、日常で使っている単語はもちろんのこと、工学に関連する様々な英語を十分に知っておく必要があり、かなり難しいことのように思うが、このレベルに到達できれば、少しは世界でも通用するエンジニアになれるのではないかと思った。
- 大学院生で海外に留学することは学問的な視野を広げ、異なる教育システムや研究スタイルに触れる貴重な機会だと思った。日本国内では出会う機会のない世界中の優秀な学生とのコミュニケーション、世界的な教授陣とのつながりなど大学院生で海外に留学することのメリットを多く学ぶことができた。

